

内蒙古の調査

Date	Locality	Remarks
2004-8-2		<p>4:00前に起きる。4:34始発に乗る。5:00過ぎに新宿着。早すぎて新聞も売っていない。6:07成田エクスプレス1に乗る。7:30成田空港、出国審査に時間がかかった。9:00搭乗する。CA452、12:00過ぎに着くも、出国管理に1時間半くらいかかる。入管の列が遅かった。荷物は卓さんが受け取る。14:05換金済み、2100ドル。15:00遠距離バスで予約後、昼食に行く。近所の店で、羊肉鍋に、ハクサイとシュンギクを入れる。キシメン状の春雨を入れる。インゲンマメのトウガラシ炒め、美味しい。トウモロコシとマツノミの甘炒め。揚げパン。ネギ入りパイ状のパン。豆腐、シイタケ、ピーマン入りあんかけ。17:30バスターミナルに戻り、夜行バスに乗る。18:10発、21:00張家口休憩40分、トイレに行く。</p>
2004-8-3		<p>4:00にシリント湖特着。30分待って、卓父が迎えに来る。4:30卓さんマンション、1050m。5:00朝食、ミルク茶、チーズ、牛肉、バター、キビなどを入れて食べる。箸を用いるが、匙が一般的かもしれない。自家製揚げパン、パイ、モモ、ナシ、小形アンズなど。8:00にホテルで休む。シャワーと仮眠。</p> <p>①ホーレー・バタ乾いた・キビ。②砂糖、③チーズ類（ジョーホエ：カマンベール様）。④ジューヒュとホーレーバダーを混ぜジューヒュバターと言う。アワはホノ・ヴァダ（モンゴル語）；茶に入れて、蒸かして食す。粥にする。シャオミイは中国語。</p> <p>牛乳を一夜放置すると、分離する。③はその上澄み、乳清か。これはさらに2分離する。一夜で脂肪分が上に来るバター、酸っぱめのチーズは下層にある。12:00過ぎに、再び、卓宅に行く。</p> <p>晴れてはいるが雲が多い。弱風。1000mの高原に低山の連なりが見える。落葉疎林はあるが、草地が広がり、森林はない。街路樹はポプラと見えたが、早朝の明かりでは確認できない。アカシアの疎林と思うが、樹冠は貧弱である。バイク、三輪車、トラックがまばらに走っている。12:30ホテルを出て、卓宅で昼食。14:05発、61370km、80~100km/hrで走る。しばらくして、町を抜けて、草原に出る。北方へ向かう。広大、全て草原である。右、草地にウシ、白い花が咲いているが、クローバーではない。所々に煉瓦の家が点在する。左手に、ヒツジの群れ。道路は良好。基本的にはイネ科の草地。右手にパオらしきもの点在。一時貯蔵所か。一部土壤浸食がある。左手にレンガ工場か？茶色の穂はもう脱粒したのか。騎乗して羊群を束ねている。水の補給はどうするのか。61392km北上中。畑地は見られない。道路沿いに裸地広がる。</p> <p>14:44、61401km、低い丘が続く。木は全くない。広大さに対して頭数は少なく、過放牧とは思えない。黒茶、白色のウシ50頭。北方へ直進を続ける。たぶん、食草とならない多年生草本が若干、ぼつりとパッチ状にある。道路沿いに多いが、山羊は食べるのか。ヒツジ200頭、羊群は約200頭が多い。ウシは10頭以下。15:14、61447km人工構造物の周囲は土壤浸食がある。北東方向に、向かう。15:21、61461km、1090m、小さい集落がある。道側にポプラが少し植林されている。100mのみ、5年ほど経過している。路側の水溜りにはヒツジも水を飲みに来る。北東に向かっていて。研修プログラムの実施の評価、電技師。丘頂が侵食されている。</p>

61493km、15:41、中規模の街に入る。周辺にポプラが植えてある。草原は美しく、それなりに暮らせると思う。右手に、ブロック工場、2棟。61498km、巴彦烏拉鎮の門に着く。パトカーが4台付いた。ポプラ15年樹路となる。61502km、卓さんの叔父さんの家、警察勤めらしい。16:21に出発して、パオに向かう。一族兄弟姉妹子供もそろって、総勢20名近くいた。自動車は4~5台。卓父宅4名、卓叔母、卓叔父宅4名、他数名。街路樹はニレかポプラ。活着はするが、一部は困難そうである。61509km、門を出るS204。61513km、左手に、双子葉の作物畑、40a。61521km、パオ村に着く。17:30~21:00近くまで、大宴会になった。煮野菜、スープ、メインは羊肉の良いところ。主人が主客から順に切って配る。ソースを付けて食べる。ミルク茶、非ミルク茶を飲む。ビール、牛乳酒、プレ馬乳酒 {もう少し発酵させると酒になる、これは酸っぱい}。最後に、肉入りイネ米粥。めしも一皿あった。味付けは薄い、美味しい。

順次、何度も、{同じ人が時々してもよい} 一言言っただけは盃を交わすが、一気飲みせず、飲み干さなくてもよい。後輩が酒を注ぎに回るが、少しだけ、一杯飲めばよい。盃は小さい。男女ともに挨拶はする。2弦の馬頭琴と2人の歌手が訪れて、歓迎の儀式。女性が酒を一杯くれる。歓迎の歌を唄う。その後、各人少数が歌いたければ唄い、解散する。9:00~10:00星を見ていたが、次第に霞んで見えなくなった。10:00過ぎにゲルの鍵を開けてもらって、寝る。22時過ぎまで、中央広場では歌とダンス、火を燃やしてやっていた。

2004-8-4 快晴

5:00過ぎに起きて、シャワーを浴びる。成吉思汗城ゲルを7:26発、61562km。110~120km/hrで走る。路側林はモミも少し植える。路傍にはアカザ科、Brassica、Alium spp. 2種、白と紫の花、葉のみ食用。草丈は20cm。西〇旗。峠の門、61573km。町近くには10m弱の林がある。マリーゴールド、キンレンカが植栽。61579km市街に入る。61583km、940m、7:43。卓叔父宅近くのレストラン。朝食; 羊肉、漬物4品、揚げパン2種、ゆで卵。ザーサイ、キャベツ、ニンジン、キュウリ、1つ不明; ゴボウ様 {ダイコンかな、千切りしたもの、芥菜。}

ホノバダ; アワはかゆにする。イネも肉入りかゆにする。朝夕にも食べる。ホーレーバダ; キビはかゆにしない。アワかゆは肉を入れて、砂糖を入れて食べる。

ここより西方にセキに効く岩塩があるそうだ。モンゴル人は2日も肉を食べないと、いられない。野菜だけだと、腹がおかしくなるといふ。卓父は蘭州に旅行したが、食が違い、ホテルで食べられなかったそうだ。61585km、8:39発、3m幅の水流れ。川水、未舗装道路。左折61588km、35km/hrの速度。街から草原へ。路傍には、ヨモギ、アカザ、などとても多い。昨日路側にあったのは、多年生の *Panicum* 属、野生の白いネギが多い。アツケシソウも多い。両側とも、25年樹齢、ポプラが多い。リゾート地に着く。920m。家族はマージャン、我々は植物採集をする。榆樹、自然林の主要樹。トカゲ、ネズミはいる。

ガヘーマック (野生ブタ) 沙〇子がいたから、半砂漠状態、5~6年前に、飛行機で種子を播く。沙地を林業庁が回復した、家畜を入れず、保全して、リゾート地にした。ロッジやゲル、乗馬、射的に使用。ニレ類が生えており、回復してきた。ヒツジを飼っていた。プロジェクトとして実施したのか、過放牧ということか。野生のスグリは酸っぱいので食べない、食べる両意見がある。クガイソウ、スベリヒユ1個体のみ、ワスレナグサ、グンバイナズナ。10:45休憩。

キビ *Panicum* sp. の雑草か雑種、アワの雑草は水路沿、休館耕作地に多く生育している。

キビ *Panicum* sp.: 穂は疎らで、数分けつ、出穂中である。護穎、穂梗、葉鞘の一部は紫色を呈している。庭地にも生えていて、雑草の可能性もある。それとも種子がこぼれたのか。逸出か。少なくとも、今、畑で栽培されていない。ホーレー・バタ (キビ) は炒ってから、ミルクに入れる。砂糖とチーズを入れてもよい。

Setaria sp. : 緑色の植物体が多いが、少し紫を帯びる個体もある。S. glauca、S. viridis、S. italica?、他に1種がある。あるいは雑種かもしれない。キンエノコロは1個体のみ、エノコログサは多く、形態と色素については変異が高い。ホノ・バタ (アワ) は湯の多いかゆにする。5分以上弱火で煮る。長く煮た方が美味しくなる。妊婦が1か月以上食べる。粉にしてピン餅を作ることもある。アワのローコウ (クレープ様、甘い)。

ソバ切り、味付け、キャベツ添え。

61596km、11:50発。61606km、12:14街区に戻り、昼食。煮物、煮魚 (フライしてから)、キャベツやセロリの漬物、ワラビに煮付け (70年代は日本に輸出していた)。苦瓜碑酒ピージュ (ビール)。生ネギ2cmに輪切りして食べる。豆腐なしのチゲ鍋。材料はナス、カボチャ、インゲンマメ、ジャガイモ、香菜、セロリ、ネギ、タマネギ、ニンニク、ワラビ、ウリ。干しトウガラシ、キャベツ、ピーマン (4切れ)、羊肉、ウズラ卵。

昼食後、シリンホトに向かう。14:08、61608km。S307途中で、スモウ像による。歌手、関取、〇〇。ウシ、ヒツジ、ロバは少しいた。草原中を走る。きた道に戻る。乗馬、オート三輪、などくらいで、交通量は少ない。時々すれ違う。ヒツジ群れ500頭の先頭に、雄ヤギ。61760km、あと36km。右にヒツジ50、左に80、少ない群れだ。右に200、内1頭が路上にいてぶつかりそうになった。右に50いても、牧人は一人しかいない。右にヒツジ200、市街が見えてきた。錫〇。61245km、15:42街区に入る。

61755km、15:56、シリンホト・ホワイト・ホテル。1泊か。No. 206。食べ過ぎた。帰国の飛行機のため、パスポートを卓さんに渡す。シリンホトから北京。標本整理、キビ3個体の主稈、エノコログサ2穂、キンエノコロ1主稈、*Setaria* 属1。FilmA2-1、A3-2, 3, 4。

胃痛に襲われる。酒とタバコ、肉が多すぎた。胃が痛い。外出を止める。三輪、西村両君は散歩に行った。夕食は断った。標本整理、文献を読んで寝た。湯沸かしに水を入れたが、電源故障でわからず、水不足状態になった。あとは3時間ごとに目覚めたが、ひたすら寝た。

6:00前に起きて、6:30に入浴。8:30にチェックアウト。61789km、8:54、970m。本屋に行って、本と地図を買う。61801km、10:56発。990m、気圧上昇か。ルート国道207、張家口穂横行に行く。街路樹はカエデ属か。山頂と、道路は裸地化している。鉄道があった。草原が単調なので、不覚にも眠ってしまった。61832km、11:37。ハトを10羽ほど放つ。平らな頂の丘が、1km続く。左手にウシ5、右にヒツジ300、ニレの疎林少しある。樹高3m。61844km、鉄道を横切る。左にヒツジ200、道路法面の草が枯死して、路側に張付いている。他種の発芽阻害をしているのか。果樹や穀物畑を全く見ない。相当数の物品を積んでいる。道路が流通を高めて、利国利民と言うようだ。どこまでも草原が続く。

61880km、12:12、環境責任碑があった。快晴。61882km、12:15、1280m。オナモミやカラムシがあった。幅100 x 長さ400kmの砂漠化進行地。細かい砂に道路法面、種子を何らかの方法で、処理している。フィルム5~6。裸地に方形に処理している、アスファルト道路は高温になる。いくつかの仮設。砂止め斜面。アサ・ロープ様のものに、イネ科の種子を縫い込んでいるのかもしれない。丘の腹部の植被が剥がれる。疎林はある。地下水位が下がる。丘の腹部には霧が付きにくい。砂が飛んで、丘の斜面に溜まる。発芽困難になる。61909km、12:52、烏日村集落を抜ける。疎林5m樹高。乾燥化したところで、風が砂を運ぶ。平らな所は裸地化していない。黄砂は5~6月の西から東に吹く強風で多く、止むのは7月。雨は6月だが5月から降ると良い。風と雨のタイミングが決める。風と砂が丘を抉る。種子や根が剥き出される。また埋まる。雨の変化はどうか、タイミングが狂ったのか。

卓父の叔父宅で休み。1300m。2名は聞き取り調査。15000ムー集団2, 3~5, 6頭。国が香港に売った。資本はどうしたのか。リーゾートを造る。牧場にする。ウシ数頭の収入、1500ムーの別土地も使えない。冬営地も破壊的になっている。ヒツジが多くなった。雨が少なくなった。砂漠化の原因と認識している。10~15年乾燥が著しい。50~70年代は畑もやっていたが、今はやめた。人数によらず、1家族1軒、2001年に移住、遊牧はやめる。定住することには、家屋と補助金はもらえるらしい。私的所有権はなくなった。1人当たり65元/月、都会に属した人にものみ、生活困難な人に、50~55歳以上に支払う。

フフホトの西から定住政策が始まったが、まだ、東方にまで及んでいないので、移動した方が良いと思っている。現状では子供を育てられない。4戸1組でウシを飼う。総150戸の定住集落で、集乳所、飼料屋をもつ。牛糞は燃料にする。2戸にインタビュー。61954km、16:53、右手に小さな湖。本年は豊かな草原に戻って残った。61984km、17:26、1349m。ここで砂漠化地帯は終わる。路側にナノハナが多い。開花結実中である。所々の低地に、湿地がある。風が強いのなら、風力発電はどうだろうか。

61993km、あと20kmで農業地帯に入る。キビも栽培があるらしいが、見えない。トウモロコシ、ヒマワリ、ナタネ、六条オオムギ、エンバク、春コムギ。藍旗の合○日○(村)。○は簡体字で入力できない。左手に黒ウシ20。62025km、18:11、雨乞い石塚、大規模の時はラマ僧も来るが、小さい時は住民がする。正藍旗商工局に着き、夕食宴会。新しく作った包にて、そのまま宿泊する。夜中に若い女性の悲鳴が聞こえ、ひとしきり言い合いがあった。起きて救助に行くわけにもいかず、申し訳ない。しかし、異国のこと、事情も、言葉もわからず、介入のしようもない。朝まで眠る。

5:30に起きる。卓父も泊ったようだ。トイレは没有と言うので、外でするしかないと、三輪君が言っているうちに、商工会の扉が開いたので、そこへ行った。3人ともやられている。モンゴル少女卓さんも肉嫌いなので、葉を飲んでた。まだ、腹調子不良。朝食後、街に行く人々を見ていた。小さい少女は髪を結って、白い服を着て、小太鼓を持って祭場に向かってた。モンゴル服の男たち、馬に乗っている人たちもいた。62040km、8:45、1300m、祭場に向かう。7~8万人は集まるという。多数の車列、郊外へと砂煙をあげて、向かう。幅30m舗装道路。トウモロコシ、ナタネ、ヒマワリ、などが多いが、各種野菜もある。62046km、9:59、入場を見る。各種の人々がいる。乗馬は少ない。祭場を出て、有料高速道路に出る。道路傍は裸地化が著しい。路上にヒツジ400、左に300頭。62058km、S308左折する。10:08。左にヒツジ50。前方に、包が見える。右手、ヒツジ100、土壌流失しないのか。路側の草地通り抜ける。前方にゲルがある。

元上都遺跡、1290m、フビライ汗の城塞。UNESCO遺産に申請中。周囲1kmほどの土塁、三重の門がある。路傍にはキビが数個体生えている。雑草かもしれない。分けつ多い個体もある。種子がこぼれた逸出か、大群落ではない。エノコログサはよくあるが、キビ属は数個体が稀にある。62069km、11:25発、リーゾート・ゲルで写真を撮る。リンドウが美しい。ネギ属1種、花梗の長いものもある。一般には2cm、5cmある。左に、男1人、ヒツジ200。ヤギ、ヒツジ400~500。右に、ヒツジ200、この間の飼養頭数を計数できるか。62088km、1154m。62095km、12:05、工商所に戻った。昼食会、3人とも腹痛につき、ベジタリアンにしてもらった。

62097km、14:01発、藍旗の街を去る。水溜りに生育しているシラカバ40本、初めて見た。スイバは稀にしかない。枯死地上部。農耕作地帯は逆方向から見ても、オオムギが多い。トウモロコシ、カボチャなどがある。62137km、14:43、再び草原地帯に入る。小雨が降り出す。左の植林地は囲って、ヒツジが入らないように保全している。西風が当たる東斜面が植被を失っているか、同課は不明で、この説は測定しないとわからない。しかしながら、理にかないうさだ。風蝕、西向きの丘の上に防風林を植える。62174km、15:13。街に入る。桑根送来、商工所に泊まることになった。自動車は明日来る。野菜園を見てから、夕食、その後、野菜農家を訪問する。農夫は40歳くらい。21:00消灯。明日からの運転手との打ち合わせはOKとのこと。

野菜農家、2ha、30ムー。夫婦で営む。男児1名、イヌ1匹。トラクター乗用1台。畑の栽培技術は素晴らしい。ニンジン、ジャガイモ、セロリ、ダイコン、香菜、スイカ、カボチャ、マクワウリ、ズッキーニなど。

畑にキビ1個体があり、分けつは多く、5~6。草丈50~60cm。ジャガイモ畑に、除去されたキビ2個体以上ある。食べないで、雑草だから、牛馬の飼料にするとする。谷子グーズ逸出して雑草的になったのかもしれない。食べるキビは西方地域にあるという。

2004-8-7 快晴

5:45起床。茶を飲む。所長らはすでに起きており、3人は泊っていなかったのかもしれない。自動車があるから、運転手は泊っているのだろう。別のジープが来たから、泊っていなかった。黒ブタ1匹。62704km、8:04、1320m。商工所出発し、すぐに水を買う。ヨシ、*Phalaris* sp.、宿泊地は湿地であった。新道、植被回復、法面の崩落を防ぐ。62705km。北西斜面が侵食されている。

国道207、すぐ左折して、草原中に入る。冬営地に来る。北錫から○旗南400、○善○克砂漠；横100km、長さ400m。一人は在住している。大きなイラクサ、痛い、若い時は茹でて食べる。夏営地で、ヒツジを放牧しているが、草が悪いので、ウシを冬営地の住居で育てている。こちらの方が草が良いからだ。4~5年前は砂漠化していたが、2~3年前に雨が多くなり、植被が回復してきた。ニレとヤナギの類。疎林は良好なので、草だけがなくなりかかったのか。一年生草本が多いかどうかなど確認がある。62716km、9:29、1295m。訪ねた牧家を出る。4戸ほどあった。ウシ45、親24、仔20くらい。牧夫2名。小型風力発電機がある。ミルクティ（炒米）、揚げパンが出る。どこでも出るので、これが日々の食だろう。単調なものかもしれない。チーズ、肉が豊かさかな。

04-8-7-1

nur湖があるので、そこに向かっていくという。パイノール湖。62720kmで道が悪くて戻る。反対側の道に行く。62727km、広大なキビ畑がある。10haくらい、2筆。草丈50cm、疎穂。トウモロコシ畑も広い。トウモロコシの生育は良好、栽培方法や何年栽培が可能なのを聞いてみたい。ヒツジの飼料にする。キンエノコロも多く、穂色の変異もある。ドゥルスはイネ科の草で、ウシは食べないので、よく残存している。この地は、夏はウシばかりかと言ったら、羊群も2集団いて、各数百頭である。草地は貧弱化している。4WDで草原を走り回り、うちしだくヨモギの香りはすがすがしい。一方で、草原破壊の一因とも思う。

後出のウルチン・アヴ山ではラマ僧を招いて、雨乞いの祭りをする。周辺の集落ゲルの人々が200名ほどの集団で、祈りに参加する。羊頭3つなど、チーズやジュースが供えてあった。周辺ではもっと高い山頂で、湖沼が4~5つ見えた。東から西に向かって、沙地が広がっていた。亜高山性のお花畑で、スターチス、リンドウ、シオン、クガイソウ、ナデシコ、大型のミツバツチグリ、紫花（園芸品で日英でも売っている）、ウスユキソウも1個体見た。マツも北斜面にあると言われたが、正確に見ることはできなかった。多くはニレである。しかし、伐採も多く、これは防護柵や、燃木に使用されたのであろう。コンクリート柵もある。稀に上部が、バラ線のものもある。2~3m。生活道は防護柵に囲まれている。草地に設営された防護柵のある路は幅3~4m、各種自動車、バイク、人、家畜が歩くので、砂土になっている。

04-8-7-2、2冊 西風で丘が抉られる。中腹→頂→砂が飛び、挿鉢状になる。抉れて崩壊する。東から南東方向に、150m、幅50m、深さ10m。底1368m、頂1395m。同じく1373m/1405m。黄砂の国、1999年以降強くなった。昔もあったが、著しい浸蝕は黄砂によるようだ。運転手バトトゥさん。セノーこんにちは。

04-8-7-3 62738km、1430m、11:33。パオでの聞き取り。父子2人が住む。水溜り、湿地があるので、とても良い宿营地である。ヤギ、ヒツジ200頭。3~4月の黄砂の時は10m先も見えない。赤土も混ざる。この現象は最近数年のことで、どこから来たのか不明である。南北に100km、東西に400km広がっている。北西の風による。ウフルチン・アヴ牛飼山1635m。西は1970m。写真は東西南北の順にとる。湖水が多い。盆地内の丘が破壊されている。黄砂の通路となっている。62743km、1555m、車止め13:21発。地図ある。ジャガステ・ノール魚が住む湖。

04-8-7-4 62751km、1425m、13:50。ヒツジの解体処理中である、30分でできる。血をこぼさない。子供2人の学費に困っている。12000元くらいかかるので、金策をせねばならない。2日以内に冬営地に戻る。170ムー（今は120ムーしかもらっていない）しかない。2年前から言われていた。すでにもらったが、山で岩が多く、草刈は機械が使えずに、手刈りしている。砂漠化のために制限されて、多頭は育てられない。政府の許可は45頭である。現在、120頭ほどいるが、売ることになる。多頭には税がかかる。ヒツジ1頭当たり50元。ウシは学費のためにすでに売ってしまった。ウシ100元/頭、家5000元、ウシ6000~10000元新しく買わなければならない。家畜いないと暮らせないが、買えば学費が払えない。砂漠化のために放牧生活はできない。高校2~3年生のことを両親は考えている。小学1年生くらいの子もいる。通学困難になりそうである。借金は困難な状況にある。核家族放牧なので、大きな作業はできない。1980年代に、私有化政策、放牧地に制限ができて、狭くなった。草地の劣化を進めた。香港に売った土地を囲い込んでいる。入域すると、罰金を取られる。政府が香港の個人に売った。この周辺はまだ売っていない、賛成していない。広義のコモンズなので、個人に収入はない。単に放牧地を取られたことになる。砂漠防止、植林には賛成であるが、生活費をどうするかを考えねばならない。政府の人が訪ねてきて話を聞かれたことはない。このようなインタビューは初めてで、話せてうれしい。政府の人にはいえないから、黙って順うだけだという。肉や野菜を食べた。結局、高い昼食代として、迷ったが、500元も置いてきた。卓さん、同情は大事だが、そこからは何もできない。調査研究の成果から、学会などに発表する、論文を書くなど提案することしかないのでは？15:35発、フタコブラクダ12頭。

04-8-7-5 62763km、1385m、16:18、聞き取り調査

04-8-7-6 62767km、アワ（出穂直前）とキビ（出穂中）の混作畑、3ha以上。定住のために、冬の飼料としてキビ、アワ、トウモロコシを栽培している。食べるためではないと言う。もうfilmがなくやめたが、途中に広いキビ畑（アワではないと思うが、正確ではない）があり、良好な穂をつけて、生育のよいものが、数個体あるように見えた。長い防護柵、鉄線が張り巡らされているので、自由な草原の往来はできない。草原内には強い轍や、今年の轍も残っている。昨年と言うのは、今は草が生えているから、こう考えた。素朴、純粹とは思わないが、追うした暮らしを追い払うようなことが良いわけではないと思う。しかし、砂漠化対応策、人口増加対応策は必要なのだろう。力の強弱、貧富の差は大きい。どの権力も、帝国であって、一般人はつらいということだろう。抗えず、研究者は記録することか、これだけとは思わない。

62783km、17:45、街に戻る。そのまま中華料理店に行って、夕食を取る。19:30頃、商工所に戻る。ナダム祭「金連川之夜」の番組収録を所長らとみる。外蒙古と内蒙古の人々の祭典ナダムらしい。5日間続く。日本の演歌のようなものか。下手なコントとか、つまらないことはここでも同じ、しかし、大きな楽しみなんだと思う。

- 2004-8-8 晴れ 6:00前に起きる。7:00過ぎに朝食。62793km、1305m、8:29発。国道207を北上する。トウモロコシ畑が多い。一か所だけ、アワらしきものの混入に見えた。生育は良い。鉄道を横切る、62795km。時速80kmで走行。62815km、8:54左折する。さらに、62820kmで左方向に向かう。沙地草原に入る。
- 2004-8-8-1 62826km、1295m、9:33。モンゴル族の牧家。清潔で、香を焚いている。兄の子、双子の家。そっくりだが、左右の耳に、それぞれ目印がある。左右の違いはあるが、同位置にあって不思議だという。ウシ3頭しかおらず、営牧は困難になっている。定住している。子供の教育は終わっているからよいが、そうでない家庭は大変であろう。大昔は良かった草。1980年代のひどい政策で、家族数によって、家畜数が制限された。子供3人（男2、女1）は卒業している。現在は夫婦2人と娘で、ウシ3頭。自分でも草を育てている。ヒツジ頭数が減少しているので、植被はこの2~3年、良好になってきている。ウシは定期収入となるが、ヒツジもいた方がよい。生活経済は大変だ。遊牧生活の方が、定着より良いと思っている。ヒツジ肉は買う、お金がないと食べられなくなった。急に政策が変化するのは困る。少ないヒツジを飼育したい。今の暮らしぶりは、今後30年続く。待つのではなく、何か新しい対応を、この国ではできないのか。10:14発、ウシ大小15。
- 2004-8-8-2 62847km、1295m、11:36。牧民家。沙地前の池沼。聴取の間に、砂丘を見に行く。雪のように白い。雪庇ができていようで、風紋も美しい。図有。池沼の真ん中が、砂丘になっていて驚く。今は南東から弱風が吹いている。5~6m。チーズを干している。純白が薄い黄色になり、塊が金平糖のように硬くなる。風と昆虫の音しかしない世界。陽は強いが、暑いというほどでもない。訪れる人もほとんどないのだろう。砂上の、直径10cmのトンネルは何か、モグラがいるのか。砂丘を滑り降りてみた。サンドスキーができそうである。フフホトの観光地ではやっているらしい。草の下は砂、土木工事の穴を見て、深い所では黄色の土であった。国土の所もある。表土から3mくらい下。62847km発。道路が細砂で、自動車は雪上のごとく走行が困難である。
- 2004-8-8-3 62853km、1295m、12:59。雷が西方2方向で鳴り始めた。風が強くなり、風車がうなっている。太陽電池パネルもある。砂丘に囲まれた盆地。池沼はある。ウマ2頭。砂丘の山肌に仏頭状に小灌木が残っている。漢族でも、中国語を話さずに、モンゴル語で話す人も出てきている。薄黄色の砂丘の山腹に、2本だけニレが残っている。62855km、1265m、13:15。雷が来た。西北西、雨少し降る。机湖を左手に見る。
- 2004-8-8-4 62861km、1290m、13:38。調査票No.15。子供4人中2人は藍旗で職を得ている。アルバイト的らしい。ヒツジ皮で、ロープ作りをしている。ウマ2頭。14:14発。中規模の未舗装道路に出て、戻る。14:25雨が降る。
- 2004-8-8-5 62894km、1290m、14:57。取りやめる。笹麦（ユーマイ：エンバク、カラスムギ）はソバ状と薄皮状の2種にして、汁につけて食べる。あるいは、黒砂糖、バターなどを混ぜて、練って、マントウ様のものを作る。
- 雨は止まない。62894km、国道207に出る。そのまま酒店に入って、昼食、その後、商工所に戻る。休息。18:00前に雨は上がり、下水路がないので、水溜りが多い。19:00に夕食、酒。乳酒を蒸留したもので、5リットルのポリタンク入り。その後、ビールは1本割り当てで、もう参った。倒れるまで飲ませないと、気が済まない、一気飲み。酒と食を楽しめばよいのに、結局出してしまったので、明日は大丈夫であろう。乳酒は、蒸留しても甘みがあって、飲みやすいが、次第に酸味が出てくる。悪酔いしそうな気がする。強制しないように言ったら、卓娘は、ここはモンゴルだという。

- 2004-8-9 快晴 5:30に起床、文献読み。7:20朝食。8:25発、62921km、1305m。62923km駅、鉄道線に沿っている。62925kmで横切る。ウシ50、半分子供。62636km一時停車。
- 2004-8-9-1 62939 km、1290m、9:18。湖のほとり。ビッティリヤ豊年（エビ様の生き物）を網で取って、茹でて後、干している。仲買人に売る、エビの餌にするために、1989年から始めた。父母夫婦、息子夫婦、凍度も男女2。桑根鎮。
- 1950年代には砂漠はなかった。ヒツジは13~14万頭いた。今は80~100万頭いる。砂漠化して、ゴトル他13種の草がなくなった。人口増加、人数で物の配分をする。1963~1964年、河北省の乾燥地から移住。藍旗で風力発電して、北京や天津に送電する。1ムーの土地を1/20の価格で香港に安売りした。1角にもならない、安くなった。遊牧生活が良くて、定住生活は望まない。1970年代は隠れて遊牧した。今年は黄砂がひどかった。植樹は個人でしている。100本植えても、1本しか育たない。柵、土地配分、土地の良し悪しの差、が人間関係を壊してきた。沙地を見る。62943km、1277m、10:41。南風が弱い。ヤナギとニレが疎らにある。
- 2004-8-9-2 62946km、1300m、11:04、調査票17。昼食をいただくことにした。うどんメンティヨルをいただく。材料は干し肉（ヒツジかウシ）、小麦粉、ネギ、塩。朝（茶）・昼・夜（ごはん）の料理は一定ではない。好みに応じて作る。酒は冬の夜に飲む。1980年代に、土地配分をして、柵囲いを作ったことによって、自然が荒れてきたとの意見である。卓さんの遠縁らしい。子供のころ遊んだ人が嫁さんに来ているらしい。昔はラクダ、ヒツジ、ヤギ、ウシ、ウマ、今はウシが中心になっている。ウマは1980年代から場所尾が狭くなって、飼えなくなった。夏営地使用が困難となり、冬営地に定住することになってきた。ヒツジが柵囲いを越えて草を食べ、喧嘩が絶えない。お金を要求しあうこともある。地元住民は自前で環境対応のために植林している。家の近くの囲い庭で、4~6月飼う。春から夏、草がない時は、秋刈草を使うが、不足すると、草を買う。トウモロコシなども。13:08発。
- 2004-8-9-3 62950km、1305m、13:26。調査票18。ヒツジは一部売るか親戚に預ける。10月には移動して定住する。ウシしか飼えなくなる。冬営地はすでになく、家も捨てる。揚げパンはウシとヒツジの混合油で揚げる。ホーマーバタはある。今年は乾燥していたが、7月初旬の降雨があり、植被が改善した。一時、街に定住しても、草原が回復したら、戻って来たい。移動期間8年くらいで戻ってこれればうれしい。沙地化は1980年代以降ひどくなった。囲い込み政策を実施してからのことである。黄砂は1998年からひどくなった。目先はよく、戻れるのならよい。
- 2004-8-9-4 62954km、13:10、14:28。調査票19。出穂中のキビと、少なくともまだ生育中のアワの混作畑、0.4ha。アワではない*Setaria* sp.、これが明らかに条播されている。標本を採る。穂は細くて、エノコログサであろうか。
- 2004-8-9-5 62957km、1310m、15:14。調査票20。若夫婦のようだ。
- その後、卓叔父の冬営地を見た。一年前に放棄した家が崩壊しつつある。16:00頃商工所に戻る。休息、19~21:00夕食。標品整理。この数年の定住直前の調査は重要である。良いタイミングであった。
- 2004-8-10 5:30起きる。8:00朝食。9:00前に出発、ユーマイを見に行く。

2004-8-10-1 63037km、1345m、9:43。ユーマイAvena sativa、随伴雑草型がある。栽培型より早熟で、すでに脱粒している。栽培型は乳熟期。風で飛んで増える。冬を越して春に発芽する。食べない。生育が良いので、土壤に害がある。農夫婦（50歳くらい）の意見では、雑草型は黒い種子、栽培が多は白い種子である。雑草型はかなり混入している。狗尾子草。

2004-8-10-2 途中に藍旗政府の植林碑がある（2001年3月）。ソバ、キビ、エンバク、ナタネ、ダイコン。ソバの1個体のみ標本。逸出個体が多い。ここは畑作地域の近郊。ポプラの植林。3~5mの樹高。国道から、500m中に木を植えるという中央政府の方針があるらしい。

工商所に着く。63077 km、1290m、10:32。その後、おばさん招待で、昼食会。おばさん、おじいさん、おば一さん宅を順次挨拶して、帰途に就く。17:00ころ、今夜の宿舎着。荷物整理。シャワーを浴び、気持ち良かった。久しぶりにひげをそり、さっぱりした。しかし日焼けが著しい。18:30、モンゴル料理店で、卓一家、運転手、と夕食。20:00過ぎに散歩、中央公園、卓父に法官研修点に送ってもらう。荷物整理して寝る。

2004-8-11 雨 6:45に起きる。荷物のパッキング中に、卓父来訪、朝食に、卓家に行く。7:30頃、三輪君の今後について打ち合わせ。調査しないで、火車旅行をして、地域の沙漠化を観察することにした。①当初予定していた卓友人の一族に交通事故、不幸があり、5名亡くなったので、付き合いは困難になった。②道路事情が悪く、長距離バスは使用しない方が安全である。③近隣に日本語を話せる人はいない。④卓さんは自宅で休みたい。10:00頃、旅館に戻る。11:30出発して、空港に向かう。ボロタクシー（30元）は空港に着く直前で、エンストしたが、何とか動いて、空港に着いた。チェックインの時に、酒草原王は没収され、碑酒は取られなかった。理由は不明である。空港の店でも売っているものを、なぜ没収するのかわからない。

雨中、飛行機来たらず。出発時間になっても来ない。皆待っているから、来るとは思える。結局、飛ばないことが分かった。バスで北京に行くとJTB一行コンダクターが言っていたので、バスで駅に送ってもらって、8:12発のフフホト行きに乗ることにした。上海在住の小北夫妻の判断に従った。バスは危険だと判断して、予定の飛行機に乗れなくてもやむを得ないとした。フフホトに出て、北京行きに乗り換えるのが良策ということになった。JTBコンダクター氏は一行のバスに乗ることに拒否した。情報を横で聞いただけでも、感謝すべきであろう。

20:12シリンホト発、フフホト行き、快速列車。8月12日7:40にフフホト着の予定。集宇南が乗り換え地だが、5:11に着いても人はおらず、雨が降っていて最悪なので、乗り越しが良いと、小北氏の友人女性の助言があり、車掌が来て、切符を座席カードと取り換えた。こうした確認システムなのであろう。順調な旅行が、最後に冒険的になってしまった。も夫も、三輪君は明日この汽車に乗るのだろう。真っ暗の中を走っているが、途中、桑根の踏み切も通る。今回の調査地の中を通過する。

2004-8-12 5:30頃、集宇に着く。小雨水没のために、地下道を渡れず、小一時間ほど列車の出発を待って、ホームから線路を渡って、出口に行き、すぐに切符を買う。小北さんが北京行きの立ち席切符を買ってくださって、これしかないらしい。やはり、5~6時間はかかるようだ。ホームは寒かった。駅員が排水を始めた。大きな駅である。北京には午後3時過ぎになるだろう。今日に帰国できるかは不明だ。途中、早暁の薄明かりで見える畑にはトウモロコシの他に、草丈1mくらいの栽培植物が、少なくとも、3種類はあった。黄緑色で、繊細そうに見えたので、キビもその中の1種であったのかもしれない。駅で待つ。9:51発のようだ。出発して、北京に向かう。トウモロコシ畑、雨が上がってきた。

ヒマワリ、エンバク、キビ、オカボかコムギ（黄緑）。樹木はシラカバ（植林が多い）、ギョリュウ、ニレ。雨多く、各地で増水。土壌浸蝕が多い。ナタネ畑か。ウシの群れは時々見えるが、ヒツジはいない。谷底は畑作。12：00頃、大同駅を出る。キビは大量に、トウモロコシ畑の間に栽培されている。アワらしき畑もあるが少ない。モロコシらしき畑も出現中。針葉樹の植林が成功している所に見受けられるが土壌浸蝕が著しい。畑中に、切れ込むように土壌が流れ込んでいる。モロコシ畑が多いが、トウモロコシ畑は左側に圧倒的に多い。確かに雑穀二次センターと呼んでもよい地域であろう。モロコシは矮性もある。穂は直立、車中で写真が取れずに残念である。スイカや若干の野菜もある。短冊状の整然とした畑である。南北方向に、畝を切っていることも、東西方向のこともある。アワ畑もあるが少ない。穂は赤茶色である。小型の植物は繊細な草姿をしているので、キビであろう。

2004-8-12

13：50、ヒツジ20、ウシ1、ロバ1。コーリャンばかりが植わっている。黄河の水はこれら支流の黄土を削って作られている。しばらくしたら、トウモロコシと野菜が混ざるので、町は近いのだろう。14：31張家口南に着き、14：42発、トウモロコシ畑が多い。オオイヌタデが畑中にある。ホーキモロコシ10本ほどがトウモロコシ畑の縁にある。宣化駅の後、若干の水田が出てくる。多くはトウモロコシの畑、15：23、水田多くなる。しかし、列車は引き続き谷あいを走っている。山は高くない。また、トウモロコシが多くなる。左手に長城らしきものが見えた。川や湖が見えるが、黄河の支流か。全面トウモロコシ畑である。16：21京市駅着、16：40発、560m。右手に長城の一部。愛国教育の地の碑を見せるために、寄り道する。なかなか北京に至らない。ミンミンゼミの声が聞こえた。高速道路下に林は良好。やっと、日差しが見えてきた。17：20まだ逆行している。モロコシ少し。左手に長城が続く。ヒノキ植林山。15年くらい。

線路沿いに、ネナシカズラが生えている。南口18：01着。植木畑が増えた。水田もある。北京北19：00着、華都飯店。19：35着。19：35着。20：30夕食。風呂に入って寝る。

2004-8-13

4：30起きる。5：30チェックアウト。6：00に空港に向かう。7：00にはANAの切符売り場が開いていたので、Yクラスが満席であったので、Bクラスを買って、すぐにチェックインした。CAのカウンターは8時からしか開かず、換金も9：30からしかできなかった。安全を考えてこれに決めた。9：18の雲海上では何も見えない。黄海に入るといふ。日本時間12：04、日本海から、現在静岡付近を通過、12：45羽田に着陸。
